

今年で築100年となった愛媛大附属中の章光堂。ルネサンス風の外見が目を引く「ステージ」に向かって白い柱が左右対称に並ぶ章光堂の内部。随所に装飾が施されている。

Message 愛媛大名譽教授 曲田 清維さん(72)



改修で復元
学びの証し
後世へ継承

私が愛媛大副学長だった2009年、章光堂を後世に引き継ぐため、保存・耐震改修工事(総工費約6,200万円)に向けた委員会ができた。工事は耐震だけでなく、建設当時に近い「復元」の意味合いも強かった。改修前、外壁の傷みに加え、しっくい壁や天井のひび割れ、床下のシロアリ被害の拡大もみられた。木質構造に詳しい東京大の藤原幹雄教授にも参加を頼み、12年からの工事で基礎や構造を補強しつつ、ついでに明かり取りのリノバムを外材の杉板に張り替え、当時の姿に近づけた。

事前調査で建物本体が細部まで、車に作られている分かった。だから、戦争や災害の影響を最小にとり、現在まで残すことができたのだ。

旧文書の出張記録などから、設計者は技師の島海地郎(1878~1942年)でほぼ間違いない。章光堂と同じ文部省が手がけた他の旧制高校の講堂や校舎も似たような建築様式がみられる。

堂として構える建築物を造ることで、旧制高校に威厳を持たせようとしたと思われる建物には、人々の暮らしや生きてきた証しが残る。学びやならなおさら。校風が脈々と受け継がれ、後輩たちにとっても、ルーツを知るきっかけを生きていくことの源になる。その意味でも、当時と同じ場所にあつた章光堂とどう変わらば、章光堂の存在意義は大きい。

2017 卒業記念音楽会



2017年3月、恒例の卒業記念音楽会にて講堂に歌声を響かせる3年生(愛媛大附属中提供)

1988 映画ロケ地に



1988年3月、章光堂の前集まる旧制松山高最後の卒業生(松山高同窓会提供)

1950 最後の卒業生



1948年7月26日の松山大空襲で周囲が焼け野原になつた中、焼失を免れた章光堂(松山高同窓会提供)

1945 松山大空襲



1948年7月26日の松山大空襲で周囲が焼け野原になつた中、焼失を免れた章光堂(松山高同窓会提供)

章光堂 青春見守り 100年 Anniversary

旧制松山高一愛媛大附属中講堂

章光堂は1922(大正11)年2月、旧制松山高の講堂として建てられた。当時の呼び名は「講堂」。章光堂となつたのは第2次世界大戦後の47年ごろで、名付け親は文相も務めた松山市出身の哲学者安倍能成(1883~1966年)とされる。

木造2階建て。内部は高さ8.5mの吹き抜けになっている。1階正面はステージ。内壁に沿って廊下のような2階はコの字形で、1階を見よせるようになっていて、2階を支えるのは20本の白い柱。細部まで意匠を凝らした手すりや照明が優美で荘厳な雰囲気を感じさせている。

100年の間には、焼失や取り壊しの危機もあった。最大の試練は米軍のB29爆撃機による松山大空襲。45年7月26日、焼夷(しよつ)弾が瓦屋根を突き破り、天井裏が燃え始めた。「講堂を守れぬ」。火の粉が吹き付けられる中、寮にいた生徒がバケツで消し止めたという。

旧制松山高の卒業生

命名 哲学者安倍能成 ◆ 生徒消火 戦火逃れる

この講堂は特別な存在だった。最後の入学生になった松山市鴨川1丁目目の章光堂(94)は「立派な講堂」を誇り、自ら自由を認められ、一人前の人間として第一歩を踏み出した印象深い場所と懐かしむ。

50年に同校が閉校になった後は愛媛大理学部として、63年に愛媛大附属中が現在地に移ってからは旧制講堂として歴史を重ねてきた。昭和期平成期に保存・耐震改修工事を実施、建築当時の姿を今に伝えている。

入学・卒業式などの式典や学校集の場として「現役」であり続ける章光堂。旧制松山高を卒業した故郷に公開された映画「ダウンタウン・ローズ」では、現生徒会長(3年平家佑汰朗さん)が「誇りや重みを、僕たちも後世に伝えたい」と語り、時に命懸けで講堂を守った先輩たちの思いを伝えている。



入り口を入ってすぐの場所に安倍能成が揮毫(きごう)したとされる額が飾られている



◆ 天井装飾
天井の浮き彫り模様も西洋らしい雰囲気を感じさせている。



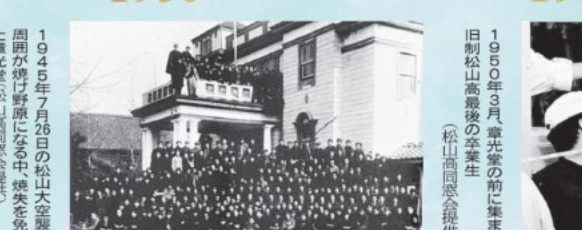
◆ 階段手すり
1階から2階へ上がる階段手すりの装飾にもこだわりが見られる。

History 1945 松山大空襲



1948年7月26日の松山大空襲で周囲が焼け野原になつた中、焼失を免れた章光堂(松山高同窓会提供)

History 1950 最後の卒業生



1948年7月26日の松山大空襲で周囲が焼け野原になつた中、焼失を免れた章光堂(松山高同窓会提供)

History 1988 映画ロケ地に



1988年3月、章光堂の前集まる旧制松山高最後の卒業生(松山高同窓会提供)

History 2017 卒業記念音楽会



2017年3月、恒例の卒業記念音楽会にて講堂に歌声を響かせる3年生(愛媛大附属中提供)

薄いつけいす色の外壁に「トスカノ様式」と呼ばれる8本の円柱からなる車寄せ。ルネサンス風を思わせる洋風建築は、学校施設や住宅が立ち並び、松山市持田地区で賑わっていた。

愛媛大附属中学校(当時持田町1丁目)の講堂「章光堂」。今年で築100年を迎えた。1998年に国の有形文化財になった旧制高校の貴重な現存建築物。戦時中、旧制松山高生徒が決死のパケツリで焼失を食い止めた逸話も残る。

昭和・平成期に保存耐震改修工事を施された。次の100年を見据えるように立つ。大正から令和にわたって生徒の青春を見守ってきた章光堂の歩み。写真とともに振り返った。(増田有梨)